

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童通所支援ぽつとまむ (児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	2024年 10月 1日		～ 2024年 10月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17人	(回答者数) 16人
○従業者評価実施期間	2024年 10月 1日		～ 2024年 10月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者様が納得して、お子様を通わせて頂いている。	送迎時等を活用して、保護者様との情報共有や関係作りを大切にしている。	信頼関係を大切に、誠意をもって対応していく。
2	集団が小さく、職員数が多いので、手厚い支援を実施できている。	お子様の発達に合わせたクラス編成を行い、一人一人のお子様に必要な支援を提供する。	職員のスキルアップを図り、より良い支援につなげる。
3	支援スペースを広く取っているので、しっかり身体を使って活動できる。	・空間や遊具を活用し、楽しく身体を動かせるよう工夫している。	・プレイルームを新設し、よりしっかりと身体を動かせる活動を取り入れる。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者様向けの情報発信や、保護者会といった情報交換の場の提供が少ないため、検討が必要だと思う。	事業所開所当初は、交流の場を設けない、というスタンスであったが、現在は保護者様からの要望が多くなってきている。	親子行事といった活動内での場の提供を増やすと共に、保護者様向けの研修の実施なども検討していき、情報交換の場を作っていくことも検討していく。
2	地域との連携ができていない。	ほとんどのお子様が無償園等の母集団に在籍されているため、日々の療育では必要性を感じていない。	災害等の時などには、小さいお子様をお預かりしている事業所として、地域のサポートは絶対に必要となってくるので、近隣の関連施設の把握や、連携のための働きかけを行なっていく。
3			